

岩手県産アワビ価格の形成要因

ねらい：アワビの価格形成要因を明らかにし、生産方針に資する。

成果の特徴：

- (1) 国産価格と岩手県産価格で、1990年前後に大きな価格差が生じているが(図1) これは国内シェアに占める岩手県(三陸)のシェアが縮小したためである(図2)。この要因の1点目は年末需要を三陸が担っているためである。2点目は岩手県(三陸)が乾鮑の製造(輸出)を担っているためである。つまり、岩手県(三陸)産アワビは、国内のその他の地域で代替できない特殊な需要があるため、前述のような価格差を生じさせていた。
- (2) 図3、4から輸入アワビと国産アワビの代替関係は強くないと考えられた。輸入アワビは、ここ数年一部の国産品の代替として利用され始めているが、冷凍・冷蔵及び缶詰が多く、加熱調理の原材料が主であることから、国産の主な流通形態である活貝流通や生食消費とは差別化できている。
- (3) 近年のアワビ需要動向として、中国(華僑、華人が住むアジア諸国)の目覚ましい経済発展に伴い、アワビ(乾鮑)需要が増加し、日本を中心に世界からアワビが流入している。一方、これまで世界需給で冠たる地位を形成してきた日本であるが、日本のアワビ需要(購買力)が低下しており、中国が日本の座を奪う勢力までに成長しつつある。

成果の活用面： 民間加工場、漁業系統団体(漁協自営加工場)、行政のアワビ生産、販売対策に利用する。

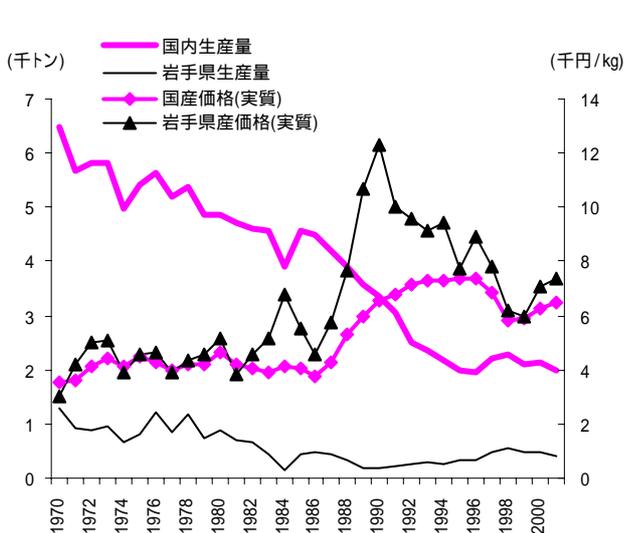


図1 全国と岩手県のアワビ価格・生産量比較

価格データ：CPI生鮮魚介(2000年：100)でデフレートした。
資料：漁業・養殖業生産統計年報

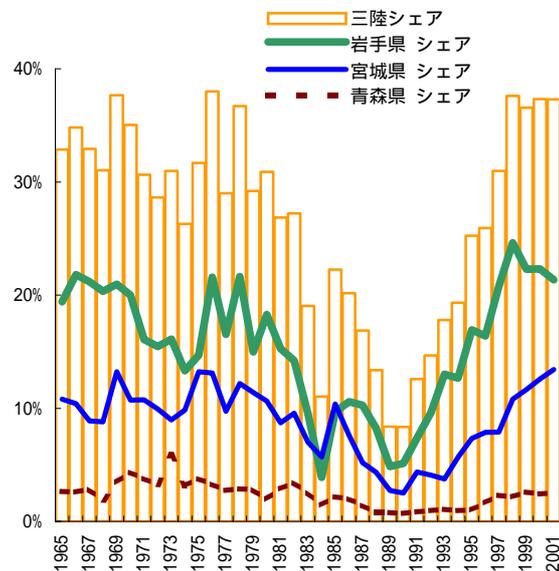


図2 国産アワビにおける三陸のシェア

注) 三陸シェア：国内生産量に対する青森県、岩手県、宮城県の生産量シェアである。
資料：漁業・養殖業生産統計年報

国内生産量（トン）

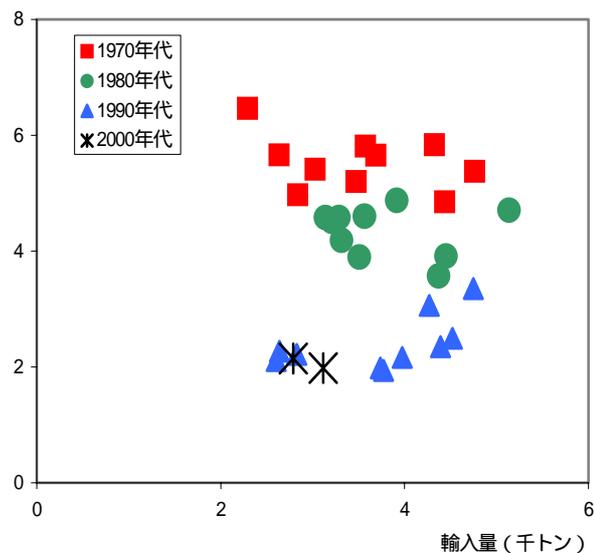


図3 アワビ輸入量と国内生産量の関係

観測期間：1970-2001年

注) 輸入量は全てむき身とし、殻付き換算値2を乗じた。さらに、1976-1980年にチリ共和国から輸入されたアワビは除去した。

資料：漁業・養殖業生産統計年報、日本貿易月表

国産価格(実質) (千円/kg)

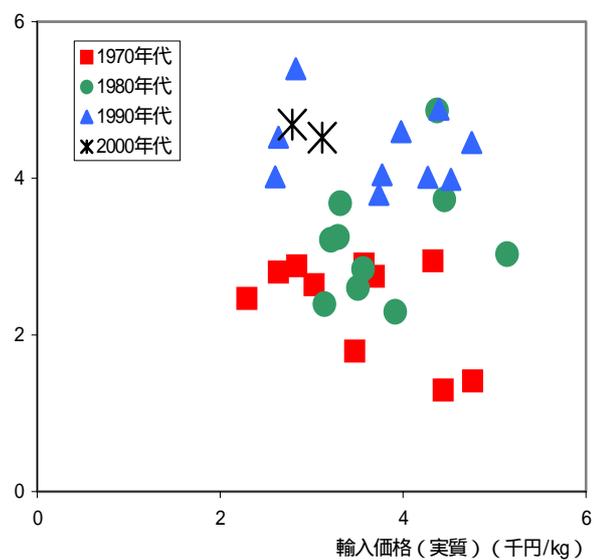


図4 アワビ輸入価格と国産アワビ価格の関係

観測期間：1970-2001年

注) 価格はCPI生鮮魚介(2000年:100)でデフレートした。さらに、1976-1980年にチリ共和国から輸入されたアワビは除去した。

資料：漁業・養殖業生産統計年報、日本貿易月表

担当者	企画指導部 専門研究員 宮田 勉	0193-26-7914 FAX0193-26-7920
連絡先	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号	
	ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/	